

## 高齢者の社会的孤立と生活問題

—1990 年代半ば以降の生活実態調査から—

○ 県立広島大学 湯川 順子 (003037)

キーワード：高齢者、社会的孤立、生活問題

### 1. 研究目的

2000 年代に入って、都市部を中心に高齢者の社会的孤立と貧困が社会的な問題となっている。とりわけ「孤独死」や「消えた高齢者」問題にみられるように、「死」という形で顕在化しているところに問題の深刻さがある。すでに、1990 年代には地域での生活問題の広がりの中で社会関係の問題があったのではないだろうか。しかし、暮らしの基盤の不安定な高齢者は、社会的なつながりの欠しく、生活問題が潜在化していたのではないだろうか。そこで本研究では、1990 年代半ば以降における高齢者の社会的孤立と貧困の形成を生活問題として明らかにすることを目的とする。

### 2. 研究の視点および方法

地域での生活問題の広がり及び高齢者の生活実態と社会関係について、階層性の視点から分析する。分析には 1990 年代後半以降、筆者が関わった地域の生活実態調査のデータを二次的に利用する（表 1）。いずれの調査も生活問題を構造的にとらえる視点と枠組み（三塚 1997）によって設計され、データは質問紙を用いた訪問対話による聴き取りによって収集された。なお、高齢者の特徴をとらえるために、無業者層のデータを手がかりとする。

表 1 使用するデータの概要

地域	調査年	地域特性： 大都市圏での位置	対象世帯数/ 回収率	高齢者の いる割合	無業者層の割 合 (%)	高齢者のい る割合 (%)
A 町	1997	周辺市町村	584/95.5	37.8	12.9	93.1
B 市	1998	周辺市町村	536/98.7	59.5	28.2	79.9
C 区	2002	中心市の一部	663/73.2	56.1	29.5	83.9
D 市	2004	中心市に隣接	686/87.8	40.2	27.6	71.7
E 市	2004	中心市に隣接	665/82.4	48.7	39.1	—
F 町	2007	周辺市町村	538/91.4	58.9	29.5	91.0

### 3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守する。使用するデータは、すべて調査報告書として公表されているもののみを二次利用する。また、市町村名は匿名とする。

## 4. 研究結果

### (1) 地域生活問題

「地域で日頃何とかしなければならないこと」について尋ねた結果をみると、「住民相互のまとまりや助け合いが乏しい」「高齢者と若者の世帯間交流が乏しい」などが地域のつながりの問題が周辺市町村を中心に上位に入っている（A町、B市、F町）。また、社会的なつながりを作る条件となる道路や交通の問題（A町、C区、D市、E市）、集まる場所などの不備・不足の問題（B市、C区）が挙がっている。2000年以降の調査では、「ひとり暮らし高齢者のこと」（C区、D市、E市、F町）、「寝たきりや病気・認知症の高齢者をかかえている世帯のこと」（C区、F町）など、高齢者問題が地域の問題として表れている。

### (2) 生活問題と無業者層の特徴

「くらしや医療の面での困りごと、心配ごと」について尋ねた結果をみると、「税金が高い」「物価が高い」などくらしを安定させる前提条件についての問題が共通して上位に入っている。また、「生計中心者の病気・事故」、「老後のこと」、「貯金ができない」が上位を占めている。無業者層の場合は、「医療費が高い」、「収入が不足」というより深刻な問題として表れている。さらに、家計について尋ねた結果をみると、食費や「水・光熱費」という生活に最低限必要なものの切りつめ（B市、D市）、社会的つながりのための費用である「交際費」の切りつめ（B市、E市）などが見られる。

### (3) 社会的なつながりの実態

社会的なつながりの実態を相談相手、近所づきあい、地域活動への参加状況という点からみると、近所づきあいをほとんどしていないという世帯は少ない。相談相手が身近にいない世帯は3～8%程度であるが、中心市と中心市に隣接した地域（C区、D市、E市）では7～8%とやや高い。ただし、無業者層は相談相手に広がりやが乏しく、家族とかかりつけ医が中心となっている。地域活動への参加は地域差が大きく中心市と中心市に隣接した地域で、参加していない割合が高い。無業者層の場合も同様の特徴がみられる。

## 5. 考察

以上の結果を手掛かりに、社会的孤立と貧困の形成について考察する。まず、地域の問題として、つながりや交流の問題とひとり暮らし高齢者や介護問題などの高齢者問題が大きな問題になってきていた。背景には、将来に備える余裕のない暮らしの広がりがある。とりわけ、くらしの基盤が不安定な無業者層の生活は「収入が不足」するなど、より厳しい実態がある。そのような中で、社会的なつながりの維持に必要な「交際費」を切りつめに至っている。生活困難の広がりが社会的な関係を制限し、生活問題の潜在化をもたらすという負のスパイラルが、今日の社会的孤立と貧困を形成し、大都市だけでなく、周辺地域へと広がりをみせている。